

二〇二二年二月二六日

眼を閉じて過す術後や夕時雨	こすもす
池の面落葉が埋めつくしけり	ぼんこ
茶の花や清楚旨とす志	わかば
亡夫の服孫に似合ひて冬うらら	はく子
木の葉髪いふこときかぬ脛撫ぜて	なつき
這ひ這ひの嬰膝に来て冬ぬくし	なつき
藪巻の結び目に凝る庭師かな	愛正
不穏なる間違ひ電話うそ寒し	素秀
唇に冷たき亡夫のハーモニカ	むべ
晴れ渡る富士を隠せる柿すだれ	はく子
黙々と門前を掃く冬帽子	ぼんこ

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二二年二月二七日